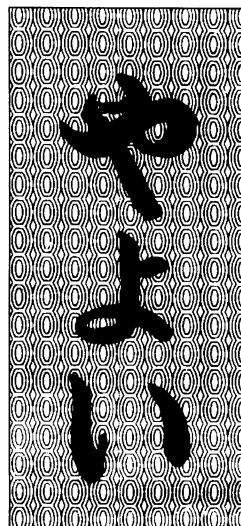




新装なった校庭から校舎を望む（全天候型マスターズコート）



発行責任者
都立向丘高校同窓会
会長 小川力洋
編集 広報委員会
事務局 〒113-0023
東京都文京区向丘1-11-18
向丘高校内
TEL 3811-2022
FAX 3812-4055

4月29日(木) みどりの日

① 総会記念コンサート

出演 歌手 広瀬節子（本校卒業生）
【曲 目】エターナリイ／ラ・ボエム／サントワマミー他多数
【会 場】母校6階ホール（予定）
【受 付】13：30～ 【開 演】14：00～ 【終 了】15：15
【参 加 費】¥1,000（福引付） 【対 象】会員・在校生・父母・一般

② 総 会 15：45～ 母校6階ホール（予定）

③ 懇 親 会 16：15～18：00

【参 加 費】¥3,000（但し平成10・11年卒業生は¥1,500）

【申込方法】4月20日（火）迄 振込完了をもってお申込みとさせていただきます
（同封の振込用紙をご使用下さい）

郵便振替口座／番号00110-9-538513 名称／都立向丘高校同窓会

※払込票兼受領証を入場券といたします

（また当日受付も可、但し事前ハガキで要予約）

★ホームカミング会（学校訪問）

【日 時】9月26日（日）向陵祭参観後 15：30～17：30

【場 所】母校ホール又は教室（当日掲示）

【講 演】“健康と骨” 講師 横浜市立大学医学博士 谷嶋二三男氏（本校卒業生）

【懇 親 会】¥2,000 軽食の用意をいたします

【申込方法】9月20日（月）迄に上記郵便振替・FAX・ハガキ（会長宅【東京都北区田端新町

1-27-11 電話03(3893)9792 FAX03(3893)9793】宛）にて要予約

多人数は代表者名で申込可

総会・ホームカミング参加で 誇れる母校を実踏しよう



同窓会長

小川 力洋

十年二月に新校舎が使用できる様になつて以来、丸一年間の月日をかけ、校庭体育館への連絡通路、隣接民家間の防球ネットかさ上げ新設、更に「小庭園・藤棚等」までの諸工事が、十一年二月ですべて終了いたしました。

メイングラウンドは全天候型のゴムチップ系舗装材仕上げであり、雨水が浸透しやすくできており、その上この水を防火用水等に利用するための貯水槽を地下に設置しています。テニスコート五面もライン引きができています。

これ程までに、文字どおり、いたれりつくせりの諸工事が無事、計画どおりに完了できましたことに、現役は勿論、同窓生としても、自身の学校と置き変え、母校に対し自負を覚えます。公共事業のありがたさを実感させられました。

本年の推薦入試や通常入試においても最新式設備を備えた母校は、全都立高校中、一番の倍率を誇ったことでも大評判の様子がお分りのことでしょう。

昨年の十月十日(土)大安で祝日の良き日に、創立五十周年・校舎落成記念の式典・祝賀会が、体育館・六階多目的ホールにおいて開かれ、各分野からのご来賓や父母・同窓会代表者延べ五百名が参

加しました。この記念として「大校歌額と演台カバー」を贈呈いたしました。
同窓生諸君！是非総会等に参加され、ご自身の手足で新風をお確かめ下さい。

益々のサポートを



校長

北村 正生

同窓会の皆さま、いつも向丘高校に対しては、ご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。

昨年十月十日には、創立五十周年・校舎落成記念の式典、祝賀会で大変お世話になりました。おかげさまで好評のうちに実施でき、本校の歴史に新しい一ページが刻まれました。同窓会よりは多大なご援助を頂き、誠にありがとうございます。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

その記念として、校歌を立派に額装して体育館内部の正面壁面に飾って頂きました。これにつきましてもお礼申し上げます。

その後、グラウンド工事が昨年末までに終わり、六階建ての校舎と体育館の間は屋根付きの通路で結ばれ、履き替えずに行き来できるようになっております。ゴムチップ系舗装材の「マスターズコート」ですが、グラウンドで伸び伸びと体を動かしている生徒の姿を見て、やっと学校らしさが出てきたと感じております。

引き続き、最後の工事として校舎北側のボールコート周辺の防球ネットのかさ上げとコート面の塗り直しが二月いっぱい工程で行われます。

さて、一月末には推薦入試が実施されましたが、大変な高倍率で、本校に入学を希望されている中学生の多さにうれしく思います。同時に、改めて学校としての責任の重さを感じております。

六階建ての素晴らしい校舎のデビュー度だけではなく、加えて先輩の皆さま方の本校に対する熱い思いと、地域の皆さまの温かいご支援のお陰と思っております。ちなみに男子四・四(昨年四・六)倍、女子一〇・一(九・四)倍でした。

このように厳しい入学選抜を経て入学される優秀な皆さんを迎えるので、すから、本校での三カ年の高校生活にかけの夢と希望にしっかりと応えることが、私たち教職員のつとめと肝に銘じております。

先輩の皆さまが永年にわたって築いてこられた、本校の素晴らしい伝統と歴史を更に充実、発展させていきたいと思えます。どうぞ、同窓会の皆さまの変わらぬサポートをお願いいたします。

周年事業一致協力で好成果

副会長 S31年卒 三田 昌男

平成十年十月十日に都立向丘高校の五十周年と新築校舎落成記念式典が行われ出席致しました。体育館に来賓の方々、歴代校長先生及び、教職員、PTAの役員、同窓会の役員、定時制を含む全校生

徒が出席し記念式典が挙行されました。同窓会からの出席者は同窓会の役員及ホームカミング等の出席者の中から選出させていただきます。この準備として記念事業運営委員会が開かれ実行委員長に現PTA会長奥村久美子氏を決定しました。総括、記念誌編集、記念式典、祝賀会の各委員会が設けられ五月二十二日から十月二日まで九回の会合が開かれました。教頭を議長に教職員、PTA、同窓会より各役員が選出され、予算、当日のスケジュール、出席者人数、祝賀会等の討議を致しました。同窓会からは小川会長、寺村会計監査、三田が出席しました。

当日の十月十日はすばらしい好天にめぐまれ式典もスムーズに無事終える事が出来ました。これも教職員及PTAの人達の尽力によるものと思っております。九九年度の都立校の志望予定調査結果が新聞に載っております。

都立の個性化と特色化で人気上昇という事でし

た。普通課で最も倍率が高いのは我が母校、向丘高校で男子が二・〇八倍、女子が三・二三倍となっています。この記事を見て同窓会の役員としてうれしく



式典模様 於体育館 (10.10.10)

思いました。皆様と共にますますの向丘高校の飛躍と同窓会の発展を心から願っております。

向丘高校近況報告

教頭 須永 孝

好天気にも恵まれて、本校創立五十周年・校舎落成記念式典ならびに記念祝賀会は、お陰様をもちまして盛大に催すことができ、所期の目的を達成することができました。

同窓会の皆様には、準備段階における運営委員会時から物心両面にわたる多大なご支援をいただきました。紙面を借りまして感謝の気持ちを述べさせていただきます。ありがとうございました。

当日御来臨の方々からは、式典における生徒の立派な態度にお褒めのお言葉を戴きました。また、六階建ての冷暖房完備でエレベーターを自由に活用する校舎が、きれいに清掃されていることに、驚きの声もあがりました。

今、近代的な新校舎の中では、新生向丘高校の教育の内的充実を目指して意欲に燃える教師のもとで、生徒の声が明るく元気に飛びかう活発な教育活動が展開されています。

改築工事に関しましては、外構グラウンド整備工事が着々と進められており、土埃の立たない全天候型のグラウンドの完成は来年早々で、生徒の活動がいつそう活気に満ちたものになると期待しているところです。

母校創立五十周年を迎えての感慨

S31年卒 梅田 博之

我が母校、都立向丘高校は、平成十年、創立五十周年を迎え、お祝いの記念式典も多くの関係者が出席して十月十日母校で盛大に挙行された。

私も式典に参列したが校舎も素晴らしい新築され、非常に感慨深いものがあつた。

私は昭和三十一年三月に卒業したが、自分が通っていた頃の母校の歩くと音がする位の木造の校舎、校舎の配置、校門のある入口附近、正面の校舎、勉強したクラスの教室、他のクラスの教室、友達、賑やかに運動会をしたり、遊んだグラウンド、渡り廊下、売店、友達との付き合いた等いろいろ当時の思い出が蘇ってきた。

同時に、光陰矢の如しという言葉があるが、自分が在学したあの頃からもう既に四十年以上過ぎたことを思い感慨無量を感じた。

そしてこの創立五十周年と校舎の新築を契機に学生が更に充実した学校生活を送り、母校が、一層名実共に発展して末永く繁栄することを期待して止まない。

五十周年にあたって

S32年卒 櫻井 弘清

平成十年十月十日母校の五十周年記念式典が行なわれました。小生が通学した、昭和二十九年四月～三十二年三月頃の校舎は二階建ての木造作りで、床はぬ

けるは外壁のモルタルは穴が空いていた事が思い出されます。もちろん体育館はなく、中庭でバスケットボール、バレーボール部等々が行なわれていました。それに比べれば、新校舎の立派な事改めて心よりお慶び申し上げます。

立地条件と云い、六階建ての校舎、三基のエレベーター、CPUの台数一〇〇台、インターネットの指定校とのこと、現在の国際社会に果立ちゆく生徒の皆様は向丘高校に学び、校訓、自主・誠実・明朗に則った教育方針の下に、歴代の校長を始め多くの教職員が弛まざる努力により、都内でも優秀校に数えあげられる様になった五十年を、同窓生として喜びを感じます。

式典に於いては、北村校長はじめ教職員、PTA、同窓会(全日制・定時制)三身一体となり式場を借りることなく母校の中で出来ること、重ねて喜びに耐えません。我々の時代は卒業式も東洋大学の講堂を借りて挙行されて居ました。

歴代の校長、教職員、都庁をはじめ



石元校長と同窓会役員他 於祝賀会場

(広瀬節子さん)が歌ったことは大変結構な事に思われました。

五十周年記念事業の素晴らしい事に感謝し、母校への誇りを一段と強められました。会員の皆様是非この節、同窓会総会に出席し校舎を見学される事を声を大にして呼びかけます。

最後に二年ごとに行っている旧三年D組クラス会と式典に田中修先生と一緒に出席出来なかった事が非常に残念でなりません。

今後其地域に密着した学校として、益々発展されることを心から祈念申し上げます。

心の故郷 わが母校

S36年卒 田中 正明

昨年の十月十日、母校の「創立五十周年・校舎落成記念式典」に出席させていただきました。当日の次第や新校舎については他で報告をされると思われるので、心づいたこととを二・三記してみたい。

受付に赴くと、資料・記念品とネームプレートとをいただいた。会場への誘導は、生徒が当たっていた。私を案内して下さったのは男子で、二年生とのこと。事前の指導がなされていたのか否かはお尋ねしなかったが、言葉遣いが丁寧で、態度と共に好感を覚えさせられたのである。

式典の会場である体育館には、在校生が既に着席をしていた。当然のことながら、多くが左右や前後の仲間とおしゃべりに興じていたが、喧噪にわたるという程のことではなく心なしか控え目であ

る。このような場合、私たちの時代はどうであつたのか自問してみた。それから、十数分が経過し、無人であつたステージの左端に教頭先生が立たれた。目をやると、口の前に指を一本当てられ、その所作を二度三度繰り返された。ステージの下でも同様な仕種をしている先生をお見受けしたが、その瞬間会場内のおしやべりが一切止んだのである。

式典は、学校長と東京都教育委員会の担当者の挨拶、来賓の祝辞と紹介と進み、明日に向けた生徒代表の言葉、続いて在校生と共に校歌を斉唱して終わった。

——向丘の学舎に 希望のひかり 満ちわたる ああ青春の感激の あつまるころ わが母校——同窓の友人との絆になつてゐる歌である。

記念祝賀会は、新校舎の多目的ホールで行われ、明るく華やいだものであつた。記念事業実行委員会がPTAと同窓会が担当と伺つたが、会を盛会裏に進めるために尽くされた先生方や事務職員、実行委員や同窓会の役員の方々のご苦労は容易なものではなかつたと推察させられた。就中、実行委員を努められた保護者の方々は四、五十名にもものぼるとのこと、お一人おひとりが脇役に徹しそれでいて華やきを醸し出されておられた。同窓生として、誠に有難く感じたのである。

記念品として頂戴した『創立五十周年記念誌』は、B五判の立派なものである。巻頭にカラーやモノクロの写真のページが、十二ページ配されている。カラー写真は現在の向丘を、モノクロの写真は来し方の歴史を語り、以下に百頁の本文が続いている。巻末に編集委員のお名前が

明記され、そのお一人がかつて共に勤務をしたと思われる方に編集の模様を話しておられたが、よい記念誌を編んで下さつたものである。

この日、私たちの代の学校長であつた石章二郎先生のお元氣なお姿に接し、親しくお話をさせていただくこともできた。——心の故郷 わが母校——恩師、先生方、同窓生、在校生、保護者の方々と、得難い時間を共に持つことのできた仕合せを、家への道すがら改めて噛み締めたのである。

恵まれすぎのうらやみと

新生向丘で若返つた息吹

S28年卒 五島(耀)珠江

暫く振りで同期会を開く事になりましたが、まだ会場が決まつていません。そんな折、会報「やよい」に新校舎落成と五十周年を祝つて同窓会を開くと言う案内を読み「コレだ！」と思いました。卒業以来学校にはすっかり無縁でしたが、学校近くに住んでいますので時々前を通ります。着々と出来ていく校舎に懐かしさを募らせていました。四月二十九日の同窓会に合せて同期会を開けば四十何年振りかの学校訪問となります。皆さつと喜んで参加してくれるのではと思ひ早速幹事諸氏に相談し、後は、やよい会々長小川氏に打診して快諾を戴きました。

当日の懇親では、わが双葉会(昭和二十八年卒生同期会)の為に一隅に別テーブルを戴き、参加者二十三名(予想より少数で一寸残念)マンドリン演奏を楽しみ、新校舎を見学しました。冷暖房・エ

レベーター・茶室等々、その設備の充実振りに昔の何も無かつた校舎をWらせ



S28年卒 同期グループ 於6階ホール(10.4.29)

て、今の人達の恵まれ加減をうらやみ、これで真面目に勉強しなかつたら許せないワネ等とさざやきながら、たつぷり用意されたお料理に舌つづみを打ち思い出話に花を咲かせました。当時は講堂も無く卒業式は東洋大学の講堂でした。お互い還暦を過ぎた年令、今更ジタバタしても仕方の無い世代となり、その割に年寄には見えないワネ等と慰め合つたり賑やかでした。

最後のお楽しみ抽選会では同期の一人がウイスキーを当てたお陰で二次会のお酒は不自由しませんでした。昔の面影は無くとも新生向丘の息吹を感じ、やつぱり此の企画は良かったと自己満足しながら母校を後にしました。向丘高校に栄えあれ、

末筆ながら、お世話下さいました皆様、ありがとうございました。

厳かな記念式典

歌に感激した祝賀会

S48年卒 佐々木(遠野)郁子

十月十日の創立五十周年記念式典に参

列させて頂いた。数々のご挨拶、祝辞、父母・生徒代表の言葉があつた。

我が母校向丘高校の最上六階に初めて上つた。広々と明るい部屋で、眺めもよく、鉤の手に曲がつたおもしろい部屋だつた。狭い敷地の制約で生まれた設計の様だが、これはなかなかよい部屋だ。部屋のどこにいても、鉤の手の中央にしつらえられた舞台がよく見える。大人数入るわりに落ち着く広さにわかれていて、椅子なども並べやすい。ここが祝賀会場となつた。

祝賀会の催物に同窓生の歌手広瀬節子(三十八卒)氏が招かれ、シャンソン・ポピュラーを所狭ましと歌い歩き間近ですてきな歌を聞くことができて、さらによかつたと思う。

旧校舎を愛し学んだOGだが、同じ高校で学ぶ若人達にこんなすばらしい校舎があたえられたことを、心からうれしく思う。

私が卒業したのはもう二十六年も前のことなので、当時をしのばせるものはほとんど残っていないが、自分が毎日通つた道を今は後輩達が通っていることに、妙に感動したりする。

世の中で何が起ころうとも時間は等しく流れていくのだと、あたたまえのことが妙に不思議に感じられる。

あの頃、私はどの授業にもあまり興味を持てなくて、校庭整備のためにクラブ活動もいろいろ制約を受けて、卒業することだけを願つてた。早く卒業したいと、それまでの時間を大切に思う気持ち

が薄かつた。まだ学校群制度のある頃で、不本意に

総会・懇親会に参加して

入学したという気持ちが捨てきれなかったせいもある。
机を並べて学ぶ時間は、人生の中ではとても短いものの、今思うとものつたいないことをしたものだ。もう一度あの頃に戻りたいけれど、それはどうしてもかなわないので、せめて後輩達には、このすばらしい新校舎で、実りある青春時代をおくってほしいと願う。
おいしい、応援してるよ、
がおか生達へ!!

S30年卒 棚瀬(佐藤)妙子

今年の四月二十九日、四十年振りに母校を訪ねました。昨年三月で永年勤務した区立中学校を定年退職し、それを機に積年の念願であった短歌集を出版して時間的にも、気分的にも解放されたせいでしょう。けれども、何といっても落成したすばらしい校舎の内を見てみたかったのです。また、

明大OBマン
ドリンククラブ
の演奏も魅力
でした。

新しい校舎
は驚くほど立
派でした。壁
画のある広々
とした玄関、
各階に設置さ
れた「ふれあ
いコーナー」
と称するベン



同窓会結成50周年記念演奏会 (10.4.29)

同窓会での出会い

ふれあいの機微

S41年卒 長谷川(原)三枝子
平成四年に始めて同窓会に出席しました。十名の同期の方と感激の再会をすることが出来ました。翌年は出席者が二十名に増え、名簿の住所の空白も次々とまっけていきました。そして同期会の開催へと発展することが出来ました。きっかけを作ってくれた同窓会に本当に感謝いたします。

同窓会でお会い出来た方、二回の同期会に出席してくださった方、残念ながらまだ、おめにかかる機会のなかった方、今年はずいぶん同窓会にお出掛け下さい。
立派に生まれ変わった新校舎で、思い出話をしましょう。私達の大切な思い出は、キラキラとかがやいていつもそこに

窓の外に見えるものは…?

あります。一人一人にお誘いの電話をしたい気持ちなんです。お話しは面白いし、た時のお楽しみということにしましょうね!!

S43年卒 井手(丹沢)章子

新築なった校舎で、初めての同窓会でした。

多目的ホールから外を眺めると、何とすばらしい景色。視線が変わるという事はこんなにも想像力をかきたてられるものかと、改めて感心させられる。昔、木造の二階の教室から見た風景との余りの違いに、時の流れを感じ、現役生徒にうらやましい思いがわきあがる。勉強に疲れた時は、中庭をバックにおしやべりをしたり、スポーツと外を見たり、心豊かな学生生活を過して欲しいと思います。

この同窓会での一番うれしかった事は、何といっても恩師の会津先生にお会い出来た事、これにつきます。同窓会のお手伝いもままならず、幹事の皆様には御迷惑をおかけしましたが、楽しい会でありがとうございました。参加者の少ない団塊の世代として、まわりに声をかけていきたいと思います。

家族三人が向丘高校卒

(妻と娘と私と)

S45年卒 宮久保わたる

私の家族は三人が向丘高校を卒業しました。地域の小・中学校ならあたりまえですが、高校ではめづらしいと思ってい

ました。

たまたま、同窓会、その他高校時代の友人と会ったとき、同級生・同窓生同志が結婚していたという話を何回か聞きましました。私を知っているだけでも十組程あります。これを、全体的に推測すると、多分百組を超えるのではないかと思います。

他の高校の実態は知りませんが、少なくとも男子校・女子校では絶対ありえない事で、素晴らしいと思っております。

“オーイ、カップルズの同窓会でもやりますか? むずかしいかな”

また、親子の同窓生も私だけの家庭でなくあるみたいです。でもこの同窓生は、親子間・世代間の断絶もあって、なかなか同窓生意識が生まれません。(窓が変わった事の結果かも知れませんが)

昨年新校舎が出来てから機会があつて学校に行きました。本当に素晴らしい校舎です。是非見学してほしいと思います。このことの影響もあつてか、今年の受験希望者も、都立校では一番多いと報道されています。本当に良い事だと思っています。

五十周年を経た向丘高校、私自身卒業して三十年を迎え、今一度母校を見つめ直し、盛り立てていきたいと思っております。

幸福者の在校生よ、大飛翔たらんことを祈る!!



追悼

原隆男先生を偲ぶ

元校長 平塚寛次郎

先生は若き日、秀れた天賦の才幹を活かして旧制沼津中学から東京高等師範に学ばれました。卒業後、都立九段高校・都立上野高校で英語教育にうち込まれましたが、乞われて都立東村山高校の開校教頭として活躍なさり続いて都立台東商業高校長、都立向丘高校長として素晴らしい学校経営をなさいました。

向丘高校では自信と誇りを持って、と生徒を励まし墨痕鮮やかに「天下の向丘」と大書して額に掲げるとともに、ご自身も長年修行なさった剣道を愛し「文武一元」ご揮毫してその額を剣道場に掲げられました。

若き日に九段高校教職の身から軍隊に応召され、終戦後十二年間の長きに亘りシベリアに抑留生活を送られたことは筆舌に尽くし難い人生の試練であられたと存じます。

このシベリア抑留生活もプラスに活かされ、人類最初の宇宙飛行に成功したソ連のガガーリンが来日したとき奥様をお連れになり、群がる人垣の中を分け入り流暢なロシア語で話しかけ、奥様ともどもガガーリン夫妻と握手なさったことも先生の面目躍如たるものがあります。

先生のどの思い出をとってみても、それは一幅の絵となり心のアルバムに残る一コマ一コマでございます。先生は八十

年のご生涯を文字通り精一杯生き、ロケットのように逞しいエネルギーを燃やし続けたみごとなご生涯を閉じられました。そして「人生に困難はつきものである。慎重に周到にそして着実に世の一隅を照らす存在でありたいものである。そこに困難を乗り越える喜びがある。」とおっしゃる先生のお声がふとそこにきえるように思われます。

先生の心意気薫陶の数々、そしてなによりも人としてのぬくもりの情は先生と接した多くの人々や教え子の方々の心の中でいつまでも生き続けます。

どうか原先生、いまはもうゆっくり安らかに眠りください。

田中修先生を偲ぶ会

S32年卒 佐藤 二元

私共昭和三十三年卒業のD組一同は、女性達がそれぞれのⅡ世の世話を終えた昭和五十年代の初め頃から、隔年毎にクラス会を開く様になりました。担任でありました田中修先生にも毎回ご参加をお願いし、求心力となつて頂いておりました。しかし、昨年六月に予定しておりましたクラス会では、当初はご参加のお約束を頂いておりましたが、折悪しく健康を害され、ご出席はかないませんでした。その後、先生にはご入院されて暫く療養されておりましたが、その甲斐なく、悲しいことに十一月に他界されてしまわれました。

そのため、年の明けたこの二月の初めに「田中先生を偲ぶ会」を開催することとしましたところ、地方におられます

方々をも含め、クラスの総勢十六名が新宿に参集致しました。会では、田中先生のかつての多数のお写真、先生からのいのちへの懐かしい年賀状、四十年以上を経て茶色に変色した先生の出題による数学テストの問題用紙などが持ち寄られ、それらにまつわる話題に触れながら田中先生を偲び、更に旧交を温めました。また、先生の奥様に贈る各人の先生に対する思い出をしたため、先生のご冥福をお祈りしながら、一年後の再会を約して散会致しました。

三年間のクラス担任

田中先生の思い出

S32年卒 藤沢寿美子

昭和二十九年四月から卒業迄の三年間故田中修先生のクラスで本当に楽しい高校生活を過ごさせて頂きました。その頃先生はまだ独身で数学だけでなくいろいろなスポーツを指導しておられました。

昼休みのHRでは先生のお話もお弁当を食べながら聞いたこと等は懐かしい思い出として残っております。

私達のグループ（女子四名）は多くの先生方にあだ名を付けて、仲間内でたわいなく喜んでおりました。田中先生には何故かその当時話題のゴジラ、と付けて替歌（粋な怪物その名はゴジラ……）を作った職員室の机の上にそと置いて来ました。先生が先に見つけ、「笑われてしまったよ」と後日先生から聞かれました。私達のいたずらと解っても強く叱られた記憶はありません。昨秋亡くなられて改めて先生の穏や

かな笑顔が思い出されます。

私が先生と同じ練馬区に住むようになって三年目だっと思ひます。久々に昔のいたずら仲間が集まって、クラス会を開きたいと云う話になり手分けして、かつての級友の住所を調べました。卒業から二十年以上もたつておりますのでとても大変な作業でしたが喜びも多く、翌年第一回のクラス会を開くことが出来ました。その後は一年置きに欠かさず集まり、懐かしい話や現況等話し合っておりまして。先生も欠かさず参加して下さいましたのですが昨年の六月の会には体調が思わしくないと、このことで初めて欠席されました。集まった人達の中には久しぶりに参加された方もあって、とても残念がつておりました。思いがけない先生の欠席に皆の心配も大きく、早くお元気になられることを願つて散会いたしました。それから五ヶ月後には皆の願いも届かず悲しいお別れとなつてしまいました。

ここに改

めて皆様と一緒に先生のご冥福をお祈りすると共にこれからクラス会が続けられるように見守って頂きたいと思つております。



3Dゴジラ会 於新宿一丁目 (10.6.6)

同窓生の消息若干

S 29年卒 牧野 茂

一月下旬、沢谷（旧姓角田）裕子さんが出品している書展を見に行った。沢谷さんは私の一期上で美術部以来のおつき合いである。曾て第一美術展に会員として油絵を出品して居たが、昨今は書家として活躍されて居る。

書の方では私と同級の金子（旧姓山中）寛子さんが、自らも書筆を揮うが、金子嶋亭氏夫人として内助の功宜しく、御主人を扶けている。久しくお会いしないが、先年一四チャンネル（MXテレビ）でオランダ旅行中の嶋亭・寛子御夫妻を写していた。

このMXTVのキャスターとして千田正穂君が活躍しているのは皆さん御存知と思う。千田君は昭和四十一年卒の同窓生である。

小川会長から聞いた所では、教育大でも私の後輩だった川端（旧姓三橋）君が、小石川高校長になり平成十年定年退職したそうだ。

私の同期生では八木俊道君が行政管理庁で出世し、定年後、日大教授になっている。私は現在竹早高校嘱託だが、三月迄で辞めるので、この会報が出る頃は無職になっている筈。

以上

出 会 い

S 31年卒 川端（三橋）春生

バレーボールというスポーツと運命的な出会いをしたこと、向丘で学んだことが人生の大部分を占める指針になると

は、その当時は夢にも考えていませんでした。

入学してまもなく、隣の席のI君が「バレーボール部に入らないか」と相当強引に誘いをかけてきました。グラウンドが狭く迷っていたところ、タイミングよい誘いでした。バレーボールについて、何も知らなかったことも入部する大きなきっかけでした。でも、I君に誘われたことが入部の一番大きな理由でした。

それから、朝・昼・放課後と時間と場所があればバレーボールに興じた毎日でした。一緒に入部したI君、E君、N君、K君、等々、小川会長もバレーボール部員でした。三年間、いい仲間と、いい顧問の先生方や先輩たちに恵まれ、本当に楽しい部活でした。

顧問の橋本力先生（保体科）は、若竹寮での合宿中、寝食を一緒にし、いたずらややんちゃなことにも暖かく応じてくれて、時には将来の人生設計のことなどについて示唆に富んだ話をしてくれました。田中修先生（数学科）は、剣道の達人という立場からスポーツへの取り組み方、心の持ち方等について一緒にプレーをしながら教えてくれました。先生方が生徒の中へ飛び込んで来て、バレーボールを同じように練習しながら、共に楽しく過ごしてくれたことは、家庭的な暖かさを感じさせてくれました。小野寺榮光先輩は、入学時には三年生でした。バレーボールの面白さ、楽しさ、素晴らしさをプレーを通じて教えてくれました。卒業後も大学のバレーボール部に籍を置きながら後輩の指導のため、向丘へきて、いろいろなことを教えてくれました。こ

れが第一の出会いでした。

次の出会いは、大学を卒業し、私立高校で二年間過ごした時のことでした。やと都立高校の教員採用試験に合格したものの、三月末のことで就職先がありません。ダメでもとものつもりで、その時の向丘高校の石章二郎校長先生のご自宅へ、就職のお願いに上がりました。校長先生のお力添えのおかげで運よく、都立小松川高校の定時制に保健体育科教諭として勤務することができました。向丘の卒業生だったことを配慮してくださった結果だと思っています。本当にありがたき感謝一杯の出会いでした。

教員生活の最後の三年間を、都立小石川高校の校長として勤めることができたのは、この出会いと向丘での生活があったからだと心に深く刻み込んでいます。小川力洋会長とは、何回か旧交を暖めました。昨年の創立五十周年記念式典には、小川会長や北村現校長先生のご好意により出席させていただきました。向丘高校は素晴らしい学校です。これからもますます母校が充実発展していくことを願っています。

傘寿の集まりだったかなア？

夏の同期会に出席して

S 31年卒 梶田（坂口）仍美

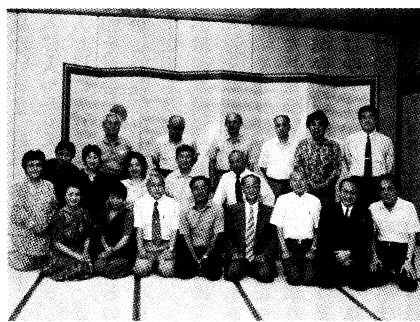
暑い夏の夜、「七月二十五日」八期生の同期会が開かれました。私は四十年振りの出席です。で覚えていて下さる方はいらつしやうだろなと思っておりました。この頃還暦を待たず天に召された方や六十代でそのような方を耳にするにつ

け私も自らのことと実感するようになり同期会への出席をしなければと感じておりました。

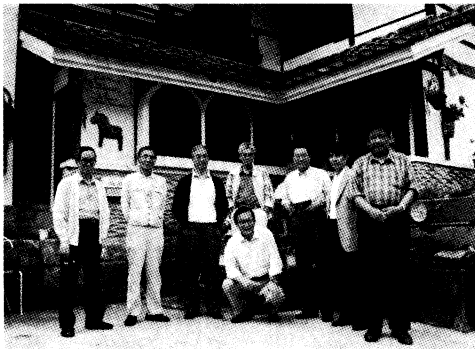
盛況を信じての出席でしたが二十人程で会場を間違えたのではと何度も確かめて入りました。これでは還暦所か傘寿の集まりかと少々残念に思い、会長幹事の皆様の御苦勞に申し訳ないと思いたしました。斯く言う私も四十年振り、欠席者の方を非難するつもりはございません。少ない故が大変和氣藹々と親睦を深め、時間のたつのが早く別れがたい思いで散会いたしました。それぞれが半世紀を越えて同時代を生きてきた重み、そして母校を共有した共感を分かち合い楽しい語らいでした。昔の清楚で真面目な学生服の姿とだぶり少しも変わっていないようにも見えてきました。

次回もぜひ出席出来ますよう皆様の御健康をお祈りいたします。

会長、幹事の皆様ありがとうございます。



31年卒同期会 於セレス千代田21 (10.7.25)



S31年卒 ヤンチャグループ 於奥多摩兜屋

碌々会のなれそめとあそび方

S31年卒 水津 信雄

昭和六十年三月に二十六年間に及ぶ転勤を終えて三井生命大手町本社に帰った数日後、同期の金田元吉君に偶然に地下鉄大手町駅のプラットホームで会い「みんなは元気か？」と尋ねたところ「みんな生きてるよ」とのこと、それから二ヶ月に一回位の「ドライブ旅行」や「飲み会」から発足したのが「碌々会」です。「碌々会」の意味は「碌で無しの碌」と、碌々平凡、まとも、安らか、仲良しから取ったもので、同じメンバーが何度か会っているうちに「一つ会の名称をつくらうや」ということから名付けたものです。

会員は現在八人ですが、これもまたまた私のワゴン車が八人乗りのため、年に

三回位の旅行に出掛ける時にこれ以上乗れないからで別に八人に意味はありません。

このほか、年に三回位の飲み会と忘年会が主な行事ですが、会員八人の内にお酒の全然飲めない人が三人いるのが不思議です。

会員の共通点は昭和二十九年の高校入学時に国語の長田英方先生のクラスだったことですが、高校入学会後の共通点としては、大体授業二時間目終了までには持参の弁当も終了して、その後はいつもお腹をすかしていたことや、下駄履きで妙義山に登ったり、おんぼろ中古自転車に乗り往復の距離も考えずに日帰り江の島へ海水浴に行き翌日から歩けなくなったり、キャンプに出掛けて、帰りの電車が足りなくなり、必死の思いで駅の欄を飛び越えたり、意味も無く校舎の渡り廊下の屋根の上に飛び降り、スレート瓦を突き破って危うく一命を落しかけたり、帰りはほとんどエンジンの掛からない中古のスクーターに乗って毎日登校したり、等の行動は日常茶飯事でした。今はとても考えられない様なことを日々繰返しながらも、辛うじて落第すること無くどうにか無事に卒業は出来ました。が、当時のことを思い出すと「ブーッ」とする様なことばかりなのに、それぞれ歳を取った現在も未だに皆にはその気（ケ）が残っている様なところがある。今でも時折りとても不気味に思うことがあります。

その他、変わったところでは旧満州国新京の国民小学校の同窓生が終戦後数年を経て無事に日本へ引揚げ後、高校入学

最初の日に長田先生の級で決められた席に並んで座ったことから、ほとんどゼロに近い確率で偶然にも再会出来たこと等、本当に奇跡に近い様な出来事のことな会員もおります。

ちなみに、現在の会員は荒井正太郎、大沢正巳、金田元吉、坂本久、村上満男、長谷川幸夫、吉岡弘、水津信雄の八名です。

皆それぞれに歳を取ってきてはおりますが、会員にはこれから先も「歳を取ったがために死ぬ」様な気持ちなど全然無い様な「何か勘違いをしながら毎日を生きている様な元気で愉快な仲間」ばかりなのでこれから先もとても楽しみです。（口先ではお互いに俺が真っ先に死ぬぞ等と明日はもう無い様なことを常時も言っています）

五十路の京都修学旅行

S41年卒 尾道(大橋)郁代

「五十になつたら修学旅行のやりなおしをしようね」と数年前から当時の仲間と言っていた年がやってきました。それぞれ仕事を持つ身はゴールデンウィークの二日間をそれに当ててしかありません。仲良し五人組のうち一人が京都に嫁いでいることから行き先は京都にしました。五人のうち一人はお母さんの看病の為、行かれなくなり、三人は五月三日朝、九時半に東京駅を出発しました。同窓会では会っているもののゆっくり話せるのは久しぶりとあつて学生時代の呼び名で呼びあい、結婚してからの子育てのことや今の生活事情等の話が弾み、外の景色



S41年卒 仲よしグループ 於銀閣寺

など見ないまま、京都に着いていました。ホームに入ったとたん、京都で待っていた一人が目に入り「変わらないね」と三人で顔を見合せて、列車が止まるのもどかしい程に車内から手をふったり――二十余年ぶりの再会でした。

京都は台風模様の天候だったのに、まるで私達を歓迎するかのように雨もあがり風もなく暖かな行楽日和になっていました。京都駅から観光バスに乗り込み、金閣寺・銀閣寺・清水寺を回りました。まばゆいばかりに輝く金閣寺を見て修学旅行の時の記憶がないのに驚きました。持ち前のおばさん根性で観光客にシヤッターを押してもらい四人並んで写真をとりました。

帰ってきてからも時々写真を出しては見て、あの日の思い出にひたっています。この次は何処へ行くのかしらと又、会える日を夢見ているのです。

思い出・想い出

向丘高校の思い出

元校長 石 章二郎

私が向丘高校の校長として勤務したのは、昭和三十二年四月一日から三十八年三月末までの六年間でありました。校舎の改築、給食施設の落成・体育館兼講堂の竣工・増改築一期二期の完成など土建屋まがいの仕事が多く、生徒とのふれあいは、月一回ぐらいの朝礼の時に訓話することぐらいでありました。特に印象に残っているのは、二年生の一年間を病室のために休学した生徒が、復学して校長室に、母親と共に挨拶に来たことがありました。その生徒があまり元気がないように見えたので、富士山の登山の例をひいて、「あなたは五六合目で一年かけて、その附近の様子を見て周って、普通の登山者より、富士山の様子をよくわかったようなもので、これからの人生も幅広く見ることが出来るようになるでしょう」という趣旨を話したことがありました。その生徒ははたして「先生のお話で元気が出ました。これからは頑張ります」という返事があり、無事卒業して上級の学校に進学したことを思い出します。

昨年創立五十周年を迎えて超近代的な新校舎も竣工し、向丘高校の前途はいよいよ充実したものになると思います。

校歌にもあるように、「弥生の花は爛漫と文化の春を謳うとき」その言葉通り

雑感

S33 保健体育科教諭 板井 哲夫

私の在職時にも体育館を会場に同窓会総会がもたれていた。その頃の出席者は三十歳以前の若者ばかりで懇親会にダンスパーティーを開いた年もあったように思う。三十五年振りに出席した今年の総会は、熟年紳士淑女による静謐な集いだった。私も今年で古稀（七十歳）を迎えた。在職中の思い出は、ざんげすることばかりである。しかし、長い時の流れと温かい郷愁とが、それらを閉じ込めたまま話題をすべて明るくしてくれる。ありがたいことである。

私の心に残る向丘の宝物は、初代校長宇野哲人先生直筆の校訓「自主・誠実・明朗」と、「弥生の花は爛漫と」を高くかに歌う生徒の純心な美しい姿である。

当時の建物は何ひとつ残されていない。ただ複雑な敷地とその周辺の面影とが懐しく残っていた。文明が進み物の豊かさを象徴する巨大に輝く校舎がすべてを一新していた。環境が変わっても、同窓の鎖をつなぎながら学んでゆく人達の心の絆は変わらない。事あることに勇気付けてくれる人間の出逢いを大切にしていきたいものである。



合唱コンクールで優勝

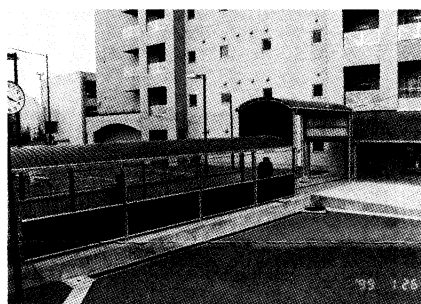
母校愛に燃ゆ

S57年卒 小室 豊

私が入学した昭和五十四年は、まだ都立高校に群制度が敷かれており、九二群を受けた私は向丘・文京・赤城台のどの高校に入れるか分りませんでした。縁あって向丘に自分の受験番号を見つけた時は近くの高校で良かったという単純なものでした。

入学にあたっては、両親もこの高校での活躍を期待して、標準服と黒革のカバンを買ってくれましたが、当時の向丘は私服での通学が許されており、入学後数ヶ月で使わなくなっていました。私服のため、学校帰りの行動に制約されるのが無かったため、悪友たちとよく寄り道をし、交流の和を広げておりました。

向丘在学中の一番の思い出は、三年次に校内合唱コンクール委員長に任命さ



校舎へ体育館 屋根つき通路

れ、又クラス合唱では指揮者として演奏をリードしたことです。

中学時代に音楽部に所属していた関係で選曲から歌唱指導まで担当し、担任の草野先生のお力添えの下、空いた時間に練習を行うのですが、なかなか全員が揃うことがなく、全体を合わせるのに苦労しました。

コンクールは虎ノ門ホールで行われ、このような立派なホールで演奏できる喜びと、合唱コンクール委員長として、全校生徒の前で挨拶を行わなければならないという緊張感で胸がいっぱいになったことを覚えております。

全クラスの合唱を無事終え、成績発表の時が訪れ、優勝三年八組と発表があった時は、クラス全員が立ち上がり、皆で喜びあつた感動は今でも忘れることができません。

卒業して十七年余り経ち、今でも年に数回仲の良かった友人と会う機会をもっております。

話の内容は、今日の話題が中心となりますが、高校時代の話になると、高校生としては幼すぎる行動の数々が出てきます。

卒業して十七年余りが経ち、当時は何の抵抗感もなくやっていた事柄をこのように思うようになったのは、それだけ年をとったということになるのでしょうか、向丘で出会った友人は、一生の友人だと思っております。

今後機会あるごとに横のつながりだけでなく上下の交流も深め、OBとして陰ながら向丘を応援して行きたいと思っております。

ひろば

初体験

S 29 年卒 小野寺榮光
ギブスベッドで五十ヶ月、天井を向いたつきの生活が実は、自分を創り出してくれたように思う。

現代フランス詩人の一人と言われ、アーチストでもあり、シャンソン歌手でもある(現、駐仏大使の)「シャルル・アズナヴール」を知ったのは末期的な症状の真夜中だった。

「小野寺君、生きると言う事は過去を捨てる事だよ」

と主治医に教えていただき、思い切って手術となり、母校の体育館に入れるようになったのは、六年振りだった。一本のバスに、新しくなった自分を感じ、同時に「シャルル・アズナヴール」に感謝の意を伝えたくなり、パリから四十分の地をたずねた。「モンワオール・ラムーリ」駅からは五分、彼の家の回りは「ルノー」で五分もかかる広さで、石で創られた重厚な家だった。

三〇kgに痩せて、「生きる事は、過去を捨てる事」と教えていただいた日から生きて還り、今、石炭ガラの上にあった校舎は「母校」と呼ぶにはあまりに新し過ぎ、「ホームカミング」とやらの異国語がピッタリなのか?と苦笑。

「アイドルを探せ」「ラインの仮橋」他の映画、「イザベル」「ラ・ボエーム」「ラ・マンマ」「帰る来ぬ青春」他のシヤ

ンソンを知った人生。私の六十五年間には更に「初体験」の連続です。

私の『本郷界隈』探索

S 30 年卒 三谷 一郎

初夏も間近い梅雨晴れの日曜日母校周辺ミニトリップをした。スタートは地下鉄丸の内線「本郷三丁目」駅である。

交差点を越え、斜めの道に(本郷薬師)の提灯が並ぶ。お堂の慎ましさに似合わない賑やかである。

その隣の桜木神社、塵一つなく掃き清められている。小さな空間だが、葉の繁った大木と歩き固められた土の感触が都会の喧騒を忘れさせてくれた。

《真砂町教会》は礼拝の時刻らしく、聖書を手に信者を迎えている老牧師の笑顔が古いステンドグラスに似合っている。道を隔てた樺の巨木は武蔵野の原の名残のようにがっしりと立っている。よくみると木の洞から鳥の雛が嘴をのばし餌をねだっている。親鳥は促すように後ずさりする。雛はつられて巣から歩き出した。巣立ちの瞬間だったのだらう。

「文京ふるさと歴史館」で史跡地図をもらい菊坂へ向かう。下れば私たちにとって懐かしい空間があった。ビルなどひとつもない四十年前のあの街並みが並んでいる……

急な石の階段を下る。石畳に、水受けの晒も真新しい手押しの井戸があった。「樋口一葉住い跡」の案内板も立っている。この井戸は明治の頃のままだらうか。

本郷台地と小石川の境はいつからか、

石垣が築かれている。じめついた露地から長屋門をくぐり、鎧坂に出ると菊水湯の煙突が見えた。東京から姿を消したかに伝えられている銭湯が本郷ではまだ健在で、日曜日には朝湯も営業している!再び菊坂に出る。一葉ご愛用の伊勢屋質店があった。蔵は意外に小さい。勿論案内板も立っている。

白山通りへ抜け「こんにゃくえんま」へ。境内にある塩蔵地蔵はどが首やら頭やら、原型を止めない程度に塗り込んである。痛みや傷の部位に塩を塗り込めば治るといふ民間信仰の権化だらう。この辺は庶民の祈りの対象が沢山ある。伝通院通りの善光寺、隣の滋眼院の暗い境内を道なりに下ると窪地に赤い鳥居がずらりと並び稲荷が祀ってある。本堂の前庭には寄り添った狐や、ちよつと意味不明のオブジェのような石像がある。どれを見ても鰻の頭も信心からという言葉が思い出される。

伝通院は徳川家子女の墓所、巨石を集めた墓石は権力のあかしだらう。現在の尺度で考えるものすごい人件費と歳月が必要だっただろうなどと、そのころに思いを馳せてみる。

白山通りは都営地下鉄三田線開通と共に大きく様変わりした。昔の面影のない大通りを避け、旧町名丸山福山町あたりを白山通りに沿って歩く。ここいらも開発という名の変化から取り残された事が幸いし、昔を止めてくれている。

八百屋お七の墓所、圓乗寺は高層マンションに囲まれてはいても異次元の世界である。十五才の少女の心が今も共感を呼ぶのだろうか生花がたつぷりと供えら

れている。

人の心は何を信じ、何を願って祈るのだろうか。そんなことを考えながら薬師坂を横切り、白山神社へ向かう。

おりしも紫陽花祭り、神輿を前に揃いの法被の男女が勢ぞろいしている。歯ブラシを配る列に並び群衆の一員に溶け込ませてもらった。

私の在校当時も紫陽花は咲いていたのだろうか。花の数も沢山で花のひとつひとつが大きな手毬のようで、色も鮮やかである。

白山下の和食の店に入る。冷たいビールがおなかの底へしみ通る。久しぶりにゆつたりした休日に懐かしい街を巡り、タイムスリップした気分である。熟知のつもりが知らなかった事を、改めて知った散歩の仕上げに遅い昼食をとる。

カメラを肩に、かなり独りよがりではあったが、こんどはどこへ等同行者との会話も弾み、和やかな初夏の一日は無事終わった。



八百屋於七の墓 圓乗寺

句会へのお誘い

向丘出身の檜 紀代先生から学ぶ

S31年卒 山本 越子

俳句の会を始めてそろそろ一年になる。今考えると恐ろしい話だが、俳句を先生に就いて勉強するものとは思ってゐなかった。形式は、学生の頃に習ったし、多少誉められもしていたので、簡単なもの、と侮っていた。

きっかけは何気ないものだったが、世の中そう簡単にいくものではない。踏み入れてはみたものの、思うようにはいかなかった。

お迎えした先生は、向丘八期生の佐藤令子さん（旧姓安藤）『檜 紀代』と号されて、現在、女流俳人の実力者である。そんな立派な先生とはつゆ知らず、同期生の気安さで呼び出したまでは良いが生徒の実力がついて行かず、先生にはいつも申し訳なく思っている。そんなピンチはずれの生徒の作品も松先生の手にかかれれば、たちまちきらりと光る作品に変身する。てにをは、を入れ替えるだけで生き生きとした句に生まれ変わる。面倒をかけつばなしのだけれど、そこは元来、楽道家をもつて任ずる私のこと、「誰にでも始めてがあるさ」などとうそぶいてのんきに構え、何事も継続が大切、せっかく良い師に恵まれたのだから、もう少し景色の見えるところまでは、とせつせと拙作を生み出している。

こんな風に書くことさぞ難しいことを：と思われそうだが結構楽しい。思いを込めて、これは力作！のつもりが軽く往なされてしまったら、行きづまり、苦肉の

一句が思わぬ評価ではめていたたいだり。まだまだ定着した実力には程遠いが、毎月の句会が楽しみである。

「やよい」のみなさん、お仲間になりませんか？

霧もまた 薄くれなゐの

花ころ 檜 紀代

（西武球場前山公園音境内に句碑あり）

日時 毎月第一木曜日

午前10時～13時

場所 佃区民館

中央区佃二一七―八

〇三―三五三三―六九五

営団地下鉄有楽町線「月島」

駅下車 四番出口すぐ左

（中央区休日診療所三階）

費用

一五〇〇円（月額）

遠矢俳句「沙羅の会」事務局

三十二年 山本 越子

〇三―三三三三―七四八九

豊かさのかげり

S34年卒 石山（佐伯）彼早子

バス旅行に出掛ける機会が多くなり結構な時間を過ごしています。車窓から景色を見ていて気付くことがあります。まず何処へ行っても家の型が都会風になり地方色がなくなること。どんなに細い道でも舗装されていること。（これはバス旅行者にとってはありがたいことなのですが）匂いがないこと等です。きれいな家を見るのは気持ちいいのですが、山合を走っているとも都会という感じがします。

たまにわらぶき屋根やかやぶき屋根に出合うとホッとします。確かに便利な生活になり住む人にとっては嬉しいことに違いないのだけれど、それはただ見学する側のエゴイズムでしかないかも知れません。

季節感という言葉があります。日本のように四季がある国はあまりないようですが春の桜、秋の紅葉等は素晴らしいものがあります。ですが作物となると一年中季節と関係なく出廻ります。苺が出るとうすぐ夏だと思ったり、キュウリ・ナスは夏の野菜、白菜・大根は冬、というように食卓の中にも季節があつたのに殆んどのがいつでも苦労なく手に入ってしまう。便利には違いないのだけれど、ビニールハウスの中で一定の温度を保つには貴重な資源が使われている現実を思うと、果して良いのかしらと疑問に思うことがあります。今はお金さえあれば何でも手に入るような風潮です。子供のオモチャも工夫して作るのではなく買い与えてしまふ。あまり良いことではないとわかつていてもついやってしまふことばかりです。豊かになって便利になってこれでもいいのかしらと思えます。成長過程でほんの少しの間でもいいからハングリー精神を体験させることが出来たら人間性豊かに成長するかもしれない。戦後の食糧難時代（私は小学生でした）を思い出せば何だかって我慢できるとオトナの人は云いました。悲しいことに生活のレベルを下げることは至難のワザです。多少なりとも苦しい体験ができたことは今になってよかったことになります。物質の豊かさの反面精神面

の貧しさにはなりたくありません。

成人式を迎えて

礼儀を弁えるべく準備段階と悟る

H9年卒 笹山 真希

先日、私は成人式を迎えました。当日は、肌寒い中、赤い着物を装い友人と会場へと足を運びました。そこには、小学校・中学校時代の懐かしい顔ぶれが揃い、途端に様々な思い出が蘇ってきました。当時の面影そのままの人もいれば、見違える程変わってしまった人もいて、五年振りの再会に心躍らせていました。十代の頃の幼さを一掃させるような着物姿やスリッパの友人を見て、みんな大人だな、と感じました。中学卒業後の進路はそれぞれで、今は大学生・専門学校生・社会人、そして主婦（母親）など様々でした。いろいろと会話も弾み、楽しい時間が過ごせましたが、同時に、自分自身の中でまだ未熟に感じている何かを、Step up させなくてはという気持ちが湧いてきました。

今はまだ学生でいられるから、みんなと騒いで遊んでいてもいいでしょう。でも、これから社会に出るためには、礼儀を弁えた大人の女性になっていかなくてはなりません。大人になりきれていない私達が、一人前の社会人になるまでの準備段階が今なのだから、今を大切に生き、いろいろな事を経験し、身に付けていきたいと思っています。

社会に出て、周りから尊敬されるような、そんな人間になれるよう努力していきます。

グローバル人材育成

S40年卒 山田 小一

二〇〇一年の実用化を目指して国際標準作りが詰めの段階に入っている新世代携帯電話IMT2000を巡って米・欧間で激しい対立が起きていることは新聞等で明らかである。

ここで少し解説しておこう。IMT2000とは、世界的な成長製品となったデジタル携帯電話が急速な普及に伴って周波数不足に陥ることに備えて日米欧の企業が開発にしのぎを削っている新世代の携帯電話。世界中で通話できることや、画像も送受信できることが特色で国連のITU（国際電気通信連合）が九九年三月までに国際標準方式を決めることになっている。日本での実用化は二〇〇一年三月を予定しており日欧方式を推進している。一方米欧企業はそろって商機を失った格好になり、通商問題に発展しそうな段階にある。

以上の状況のもとに次世代携帯電話のIPR（知的所有権）の問題が表面化し、次世代携帯電話UMTS IPR WGの世界会議が九八年二月を起点にバリで開催された。

私の仕事は、その世界会議（十二か国三十八社）に出席して、業界としてのまとめを行ない、IPRの世界標準に少しでも貢献すること。かような国際会議をリードし、世界貢献なんという器はとても持っていない私だが、たまたま当社（バナソニック）は国内で携帯電話のトップメーカーであるがゆえ、業界からの要請に応えるハメになってしまったので

ある。

既に欧州で四回の会議が持たれ、日本提案を持ち寄ったが欧州勢の壁は厚かった。語学の問題をはじめ、風俗、文化の違い等あまりにも違い過ぎることに気がついた。

まず相手の国のことを知ることからスタートしないと交渉なんてとても無理である。もともと欧州勢は議論の好きな人種で、なかなかの強かものだ。

その観点から日本は欧米から見ると特種な国としか見えない様だ。社会インフラ、教育制度の違いが根底にある様だ。今になって思うともっと若い時代（高校時代も含めて）に国際人の素養を持つておけばいいと思う……

国際貢献ができるグローバル人材育成を期待しつつ、また向丘からかような人材が是非育つてもらうことを切望する。話し変わって、クラス会の内容を少し紹介しておこう。

昭和四十年卒のわがE組は、非常に仲間意識が強く、四十年高校卒業して一年間は毎月クラス会を開いていたことを記憶している。ここ数年間、常任幹事になってしまった私と岩野さんは、毎年十月の第四土曜日にクラス会を開くことを皆に約束してしまいいまも継続している。とにかく出られる人は出て下さいと電話で連絡を取り合って、毎年会うことを楽しみにしている。女性幹事の岩野（鈴木久子）さんの気くばりが有って私自身助けられている。ゆく末は昭和四十年卒の同期会が出来ればと思いつつ、ふと機内の窓から外に目をやると、そこはドーバ海峡、同じくしてベルト着用のランプが

点灯し、二十分後にバリドゴール空港に着陸とのアナウンスによってそつとペンを置いた。本文はニューヨークからバリにエアーフランスで移動中に機内で記したものの。乱筆乱文で失礼。

受賞

本校出身の横山秀夫氏（昭五十年卒）が書いた推理小説「陰の季節」がこのほど、第五回松本清張賞を受賞。同時に第百二十回直木賞候補にノミネートされた。横山氏は本校を卒業後、東京国際大に進学。新聞記者、フリーライターを経て作家に。受賞作「陰の季節」（文藝春秋刊）は、全国書店で発売中。

あとがき

今会報には多数のご寄稿をありがとうございました。限度ある紙面の故、区分等ままならぬ点、ご了承下さい。卒業生総数一五、七十七名中住所判明者全会員に配布を目標。未届者は会長までお申下さい。尚、活性化に向け費用逼迫につき、年会費等の振込みご協力を乞ひ願います。（公報委員会）

訃報

林卯一郎先生 H10・1・18
藤黒正明先生 H10・3・14（享年82歳）
池田晴彦氏 H8・12・3（享年62歳）
高木英久氏 H9・5・28（享年52歳）
花山武久氏 H9・2・12（享年42歳）
謹んで哀悼の意を表し、お知らせいたします。（但し連絡があった方のみ）

●平成9年度会計報告及び平成10年度予算案●

都立向丘高等学校同窓会
平成10年3月31日現在

区 分	9年度決算 金 額	10年度予算 金 額
収 入 の 部		
入 会 金 (259名)	1,554,000	1,380,000
年 会 費	370,000	350,000
総 会 費 (当日分)	67,000	150,000
雑 収 入 (利息他)	723	0
名簿売上・周年事業積立金取り崩し予算	46,000	1,000,000
前 年 度 繰 越 金	1,246,733	1,436,613
収 入 合 計	3,284,456	4,316,613
支 出 の 部		
交 通 費	20,000	40,000
信 刷 費	57,104	60,000
通 会 費	46,783	60,000
議 会 費	97,109	200,000
総 渉 費	61,150	60,000
慶 弔 費	48,750	50,000
研 究 費	10,320	50,000
振 興 費	21,600	100,000
報 告 費	1,171,253	1,250,000
雑 費	13,774	100,000
50周年卒業記念品、50周年記念事業費予算	300,000	1,200,000
支 出 合 計	1,847,843	3,170,000
次 年 度 繰 越 金	1,436,613	1,146,613
周年事業積立金	1,000,000	0

上記の通り収支報告申し上げます。

平成10年4月29日

同窓会会長 小川 力洋◎
会 計 荒川 雅司◎
千田 仁江◎
尾道 郁代◎

監査の結果誤りの無いことを認めます。

平成10年4月22日

監 査 石山彼早子◎
寺村 光司◎